

仕事人秘録

2006年1月16日夜

の本社への強制捜査で幕を開けたライブドア事件。東京地検特捜部に逮捕された堀江貴文氏から後を託され、同社社長に就任したのが平松庚三氏だ。複数の外資系企業の日本法人にヘッドハンティングされ、業績を改善してきた同氏はライブドアの「敗戦処理」を円滑に遂行するため、東奔西走することになる。

人に恵まれた転職人生 ①

元ライブドア社長

平松 庚三氏



後列左が平松氏

ひらまつ・こうぞう 73年米アメリカン大卒、ソニー入社。複数の外資系企業の日本法人を経て03年弥生社長。06年ライブドア社長。08年小僧com会長兼社長。北海道出身。64歳。

多くの失敗、多くの出会い

したのはライブドアの社員の心情をケアし、士気を鼓舞することだった。ライブドアの社員の質は同業他社と比べても、決して遜色（そんしょく）のないレベルだった。その意味で堀江貴文という経営者には間違いなく人を見る目があつたのだと思う。

携わった者として改めて感慨深いものがあつた。国際ジャーナリストになるのが夢だった学生時代を皮切りに、今まででかした失敗は数知れない。それでもソニーを経て、外資系企業を渡り歩くことができたのは、ひとえにソニーの盛田昭夫氏をはじめ、数多くのカリスマ経営者から直

接、教えを受ける機会に恵まれたからだろう。大勢の優秀なビジネスパートナーにも支えてもらってきつた。そのたびに私自身も少しずつでも成長してきたり、弁明の余地もないことは明らかだった。社内での困気を明るくしたいという私の気配りがどれほど奏功したか不明だが、社員も弱音を吐かず、ついてきてくれたのはライブドア社長時代かもしれない。平松氏が一貫して腐心

ただ、彼が社会や市場に多大な混乱を巻き起こしたことは紛れもない事実で、グループに属する社員全員に何らかの責任の一端があり、弁明の余地もないことは明らかだった。社内での困気を明るくしたいという私の気配りがどれほど奏功したか不明だが、社員も弱音を吐かず、ついてきてくれたのはライブドア社長時代かもしれない。平松氏が一貫して腐心

私の人生もまだまだ長い。もう一花咲かそうと意気込んでいる。そのため、この2年あまりの間、ライブドアで一生懸命働いてきた社員たちの未来はもっともっと輝かしい可能性に満ちあふれていると確信している。彼らの平均年齢はまだ30歳代。彼らがあの事件から多くの教訓をしっかりと学び取り、今後さらなる飛躍を遂げてほしいと心願している次第だ。